

やすらぎ短信

平成 28年
7月号

七月七夕



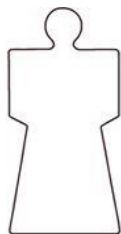
七月七日（北海道では新暦にあわせて八月七日）は、七夕の日です。七夕の織姫・彦星のお話は、中国の織女（おりひめ）と牽牛（けんぎゅう）の星伝説が伝わったもと云われています。幼い頃に聞いた七夕のお話を簡単にまとめましたので、思い出してみましよう。

天の神様には「織姫」という機織りが上手な娘がおり、婿を探していたところ、牛の世話をしている「彦星」という働きの若者と出会い、娘にふさしいと思っ

ばかりで一向に仕事をしません。心配した天の神様が注意するも、全く言うこと聞きません。彦星の飼っている牛は、次第に痩せて病気になり、織姫の機織り機には埃がかぶり、神様たちの服もほころんできました。怒った天の神様は、二人を天の川を挟んで引き離し、会えないようにさせます。離れ離れになった二人は、悲しみに暮れ仕事も手につきません。困った天の神様は「お前たちが毎日まじめに働くのなら、一年に一度、会うことを許そう」と約束し、二人は心を入れ替え、まじめに働くようになりました。七月七日の夜は、一年に一度だけ二人が天の川を渡って再会できる日となり、大雨で川を渡れないときは、カササギという鶏の群が翼を列ねて橋をつくり、二人を会わせてくれるのでした。めでたし、めでたし。というお話です。



大祓式の様子



夏越の大祓式齋行

去る六月三十日午後五時より、夏越の大祓式が齋行されました。この儀式は、日常で知らぬうちに心身に付いた「つみ」「けがれ」「厄災」を半紙で切り抜いた人形（ひとがた）に移して祓い清め去るもので、今年も氏子崇敬者が参列し、無病息災で過ごせるよう祈願致しました。

宮司の一筆

「氣を入れ替える」

新年が明け、半年が経過した。「早いものでもう七月…」この時期によく口にする言葉だ。自分もこの言葉を口にしなから「時は金なり」という言葉が頭に浮かび、時の無駄使いを反省するのである。

日本には古来より六月三十日と十二月三十一日の一年に二回行われる「大祓式」という儀式がある。半年の節目と新年を迎える節目に「つみ」「けがれ」を祓って除去し、厄災を避けることを目的として行われる。その起源は『古事記』『日本書紀』の神話にさかのぼり、古くから宮中で行われ、中世以降に各神社の年中行事としても普及し、現在に至る。

日本人は、年中行事や人生儀礼などの節目を重んじ、古くから伝わる儀式を大切にしてきた。節目とは、自分自身を振り返り見つめ直す大事な機会である。

新たに「氣」を入れ替えて、残りの半年もご健勝で活躍されますように。

リシマキアの花をご奉納

去る六月五日、石原 英之様（万年）

よりリシマキアの苗、五二五株をご奉納頂き、浦幌町空手道少年団の子供たちと保護者のご奉仕により植栽しました。場所は、樹霊塔への参道左脇で、昨年植えたりシマキアの続きです。昨年と合わせて千株になったりシマキアの開花が楽しみです。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。



石原様と空手道少年団の子供たち

浦幌神社御創祀百二十年を

記念し祭具をご奉納

去る六月三十日、有限会社ネット代表取締役社長 高田勝基様（幸町）より、浦幌神社御創祀百二十年を記念し、祭具調整費 金八萬円をご奉納頂きました。当社では祭具を左記の通り新調させて頂きました。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

三方七台・大角一台・祓串一台



ご奉納頂いた祭具

浦幌神社行事予定

七月一日 月次祭
七月十五日 月次祭

発行 浦幌神社社務所

北海道十勝郡浦幌町字東山町十八番地の一

電話 〇一五・五七六・二四四八